

2020.11 自主防災会長 中山 敏夫

紅葉も進み北風の吹く日もあり寒くなってきました、今年は風邪だけでなくコロナ汚染への警戒も必要です。手洗い、マスク着用して人込みを避けましょう。

先月末に晴嵐学区自主防災会訓練会合があり、丸山防災士、井上自治会長と共に参加しました。本年はコロナの影響により例年の“防災訓練”ではなく「災害時における避難所の実態」と題し災害救援の経験豊富な講師からお話を聞きました。

主なポイントは、

* 災害時の対応は「自助」(各家庭)、「共助」(近所・防災会等)、「公助」(消防・自治体等)の割合が7:2:1となる報告があり、災害が深刻なほど「公助」は難しい。

「自助」が重要である。

* 「避難所」生活の諸問題；非日常の予期せぬ共同生活であり相当のガマンが必要。衛生問題、不眠、食事、プライバシー問題等でトラブルが多い。滞在期間も意外と長くなる。リーダーの指示に従うのが安全で安心。

* 避難所生活での注意:公的な支援は時間がかかり、我が家の防災資材として最低3日分の水・食料・トイレ・薬などの準備をすること。コロナ感染・エコノミークラス症候群などへの対策も。特に持病や食料アレルギーを持つ人は常用薬など多めに準備を。

* コロナ禍により「避難所」の定員は減らされている。被害状況を見て避難所外への避難も検討してみる。但し状況把握のために自主防災会への届け出は必須。

など各家庭での「自助」が「減災」、「よりましな避難生活」の決め手であると強調されていました。我々にも可能性がある「避難所生活」です、参考にしてください。

コロナ禍のせいで、現在まで一丁目二区自主防災会も防災訓練が出来ておりませんが、11月1日の「ふれあいレクリエーション」に協賛し、参加者に「大津放水路施設」を見学案内し大津市の専門家に解説頂き風水害への思いと共に地域を歩いていただきました。また「防災ハンドブック」の配布と防災保存食を参加者全員にお渡して防災意識の向上をお願いしています。